

- ヒロシマ平和の灯のつどい（報告） ··· 1~3
- 「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン（報告）・広島市議会「女性議員との懇談会」 ··· 3~4
- 広島市女性団体連絡会議 2025年度役員・ひろしま WENET からのお知らせ ··· ··· ··· 4

第27回「ヒロシマ平和の灯のつどい」（報告） 2025年7月31日



イスラエルによるイランの核施設攻撃から中東で軍事衝突の応酬が続き、米国のトランプ大統領がイラン核施設への攻撃について広島と長崎への原爆投下になぞらえる発言をするなど、広島・長崎の被爆80年の年に核兵器使用の恐れが増しています。また、いまだ続くロシアによるウクライナ軍事侵攻、さらにガザ地区の目を覆いたくなるような非人道的状況という厳しい世界情勢の中、原爆や核被害により死没された人びとの鎮魂と核廃絶を願い、世界へアピールする「ヒロシマ平和の灯のつどい」第27回をひろしま WENET と広島市の共催で開催しました。

第一部は、5歳の時に被爆された石橋紀久子さんのお話を広島平和記念資料館地下メモリアルホールで聞きました。石橋さんご自身が描かれた絵を示しながら懸命に証言される姿に約70名の参加者は静かに集中して聞き入りました。

その後、平和記念公園の原爆死没者慰靈碑前に移動して第二部をスタート。来賓の広島平和文化センター平和文化振興部松浦宰雄部長のご挨拶の後、広島県から選ばれた第28代高校生平和大使、基町高校3年中

嶋胡桃さん、福山暁の星女子高校1年永戸あみさん、ノートルダム清心高校2年下田梨央さんの三名と、多摩市・国分寺市から参加の中学生代表が、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けられる「平和の灯」から採火を行いました。

高校生平和大使から「核兵器が存在することが脅威。核兵器をなくすという強い想い、被爆者の方の体験と平和への想いを発信し続けてまいります。」と力強い決意表明がなされました。

カザフスタン被爆者への鎮魂歌「ザマナイ」の曲とともに、平和の灯を皆さんのが手に持つろうそくへと分灯していきました。慰靈碑を訪れていた国内外からの方も含め、約120名もの方が参加されました。

森恭子さんの演奏に合わせ「原爆を許すまじ」を合唱し、網本えり子さんによる原爆詩の朗読をお聞きして原爆や核被害者の方々への鎮魂と平和への気持ちを再確認しました。山下京子さんのアカペラによるカザフスタン被曝者への鎮魂歌「ザマナイ」とともに、参加者全員がろうそくを手に原爆死没者慰靈碑を中心に東西二手に分かれて行進しました。

その後「青い空は」を合唱し、国分寺市・多摩市の小・中学生代表が感想を述べました。最後にマイラ・アベノバさんからスピーチを頂きました。旧ソビエトによるカザフスタンの核実験放射能汚染で家族を失い、現在はNGO「ポリゴン21」事務局長として被害者支援活動をされているマイラさんは、「広島の集いでザマナイの曲が使われていること、また、平和の灯が消えないように風から守っている皆さんの様子に感銘を受けた」と。つどいを続けていくことの重要性を改めて強く感じました。（広報部：門田よしこ）

【被爆者の証言を聞く会】

石橋紀久子さん

1940年生まれ。5歳の時、爆心地から2.2キロメートルの舟入の自宅で被爆



紀久子さんは時折声を詰まらせ、涙をぬぐいながら、語ってくれました。その話は、5歳の子どもの記憶とは思えないほど鮮明で、気迫に満ち、心の奥底から搾りだすような声と相まって、うかがう私たちも思わず身を乗り出すほどでした。「伝えなければ」という使

命感にも似た思いがひしひしと感じられました。

8月6日の朝、母親から班長さんへのことづてを頼まれ、覚えたてのスキップをしながら伝えに行く時の様子は、「おかあさんの役に立っている」ということども嬉しい喜びにあふれて、それが私たちにも伝わってきました。が、次の瞬間原爆が炸裂、頭にはガラスが刺さり、血まみれに。母親がそのガラスを歯で噛んで抜いてくれたけれど、そんな傷だらけの体でも、救護所でやけどや傷にたかるハエをうちわで追い払う手伝いを腕が痛くなるまで続けたという話などから、戦時中の子どもたちの様子も知ることができました。中でも紀久子さんは気丈で良い子だったのででしょうね。

妹の様子や父親が無事に帰ってきて、家族が再会できたときの様子など、母親、父親、祖母らの愛情に包まれての暮らしぶりが子どもの目線で語られ、貴重な証言だと感じました。

体調がすぐれない状況を押して、真夏の異常な暑さの中、証言をしてください、ありがとうございました。
(学習部：平木久恵)

* * * * *

【第28代 高校生平和大使】

広島市立基町高等学校3年中嶋胡桃(くるみ)さん

私の曾祖父、時雄は広島に兵士として招集され、被爆し亡くなりました。

私は被爆4世になります。

時雄は7月下旬、兵士が足りないため招集され、広島城付近の陸軍師団に向かって出発しました。時雄を最後に見送ったのは彼の家族だけでした。見送りのとき妻の知枝子は時雄の死を覚悟していたそうです。時雄本人も同じだったでしょう。

8月6日、時雄は爆心地から1キロの距離で被爆しました。周りにいた人が重傷を負った時雄を火の手の来ない己斐小学校まで運んでくださいました。その8日後、時雄は亡くなりました。妻の知枝子に時雄の死の知らせが届いたのは9月上旬でした。その時、知枝子のお腹の中には私の祖父、尚徳が宿っていました。時雄は息子の顔を見ることができず亡くなり、尚徳はお父さんを失って産されました。

尚徳はこう言いました。

「私はもともと父親がいないという状態で産まれてきたから寂しさはあまりなかった。しかし、当たり前にそばにいた人を失った母の知枝子(曾祖母)や兄たちはどんなに辛かったのだろう。」



自分の身の回りに存在しているものを失うことはとても許せないものです。各地で戦争に巻き込まれている人たちがいくら嘆き悲しんでも、核兵器によって亡くなった人たちが戻ってくることはありません。

尚徳の話を聞いて私は、家族と過ごせる日常のありがたさを感じました。

しかし現在、核兵器により我々の日常が失われる可能性がいまだ存在し続けています。

身の回りにいる家族や友人、平穏な日常、趣味など何もかも私たちから奪う核兵器は無くさなければなりません。しかし被爆 80 年の今、核兵器の数は増加傾向にあります。核兵器は誰も幸せにしません。悲惨な過去を残すだけです。核兵器が存在することが脅威なのです。私は核兵器をなくすという強い想い、被爆者の方の体験と平和への想いを発信し続けてまいります。



「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告)



「そのとき、私たちにもできることがある。」

国は、毎年 11 月 12 日～25 日までの 2 週間を「女性に対する暴力をなくす運動」としており、各地で様々な活動が行われます。今年度のポスターは、直接的な加害者・被害者ではない第三者の立場にいる方々を主な対象として、「DV や性暴力に気づいたら 相談されたら そのとき、私たちにもできることがある。」というメッセージでした。

ひろしま WENET も、広島市と国際ソロプロチミスト広島一中央が主催する街頭活動に協賛し参加しました。1 回目は 11 月 12 日（水）14 時から紙屋町交差点付近で、啓発チラシを入れたポケットティッシュ 500 個を配布しました（参加者 10 人）。2 回目は 11 月 25 日（火）14 時からハ丁堀交差点付近で 500 個配布しました（参加者 15 人）。今年は受け取りが良かったように思います。（啓発部 貴田）

広島市配偶者暴力相談支援センター

区分	電話	相談受付時間
女性相談員による相談	082-504-2412	月～金 (祝日・8月6日・年末年始を除く) 10:00～17:00
休日 DV 電話相談	082-252-5578	土・日・祝日・8月 6日 (年末年始を除く) 10:00～17:00

年齢・性別を問わず
相談できる窓口があります



広島市議会「女性議員との懇談会」(報告)

9月11日に広島市議会女性議員とひろしま WENET 会員で懇談会を開催しました。女性議員は有田優子さん、門田佳子さん、桑田恭子さん、清水貞子さん、中原ひろみさん、中村孝江さん、吉田いつこさん（50音順）の7人、ひろしま WENET 会員は9人が参加し意見交換しました。まず、当会会長の女性議員の活動への期待を込めた挨拶の後、各議員からこの1年間の活動や成果について話されました。地域にある病院の重要性、各学校のエアコン設置、中央図書館の移転に関する問題、社会保険料の負担軽減、生理用品の配布の件、上安地区の産業廃棄物施設の安全対策、市民の足となるバス運行の減便、下水道施設の老朽化による陥没、等各議員の熱心な活動の様子やそれによる市民生活の改善についての話がありました。特に議員から、少子化問題や広島に住みたいと思える環境など予算の最優先を暮らしに据えていくよう訴えたい、暮らしの実態を知り、声を届ける力になりたいとの力強い言葉がありました。この言葉から、私たちは小さな事でも声を上げることが重要だと強く感じました。

会員からは、会計年度任用職員の労働条件についての要望を伝え、2024年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」施行後、広島の各自治体の取り組み状況について I 女性会議広島県本部が実施



したアンケート結果から、これから取り組みの必要性が話し合いました。特に女性相談支援員が専門員ではないのは問題であり必要なところは正規職員にして欲しいとの意見を伝えました。これらについて、これからも勉強していきたいと考えています。

(報告：学習部会 宮田保江)

広島市女性団体連絡会議(ひろしま WENET)からのお知らせ

広島市女性団体連絡会議 2025 年度役員

役職名	氏名	団体名
会長	中嶋 典子	Human & Network 宙(そら)
副会長	平木 久恵	2000+17・平和
副会長	西村 宏子	2000+17・平和
書記	藤永 雅子	広島市未来を考える女性の会
書記	宮田 保江	安芸コスモスゾンタクラブ
会計	森 政美	水曜茶論
会計	土居 絹子	安芸コスモスゾンタクラブ
学習部会長	山本 紀子	水曜茶論
啓発部会長	貴田 月美	I女性会議広島支部
広報部会長	門田 よしこ	女性議員を増やす会
監事	富川 久子	I女性会議広島支部
監事	山田 聖美	国際ソロプチミスト広島

ひろしまWENET2026

男女共同参画セミナー

日時: 2026年2月7日(土)

14時～15時30分

場所: JMSアステールプラザ

4F大会議室A・B

(広島市中区加古町4番17号)

テーマ: 「私たちの生きづらさと
ジェンダー～失われた30年～」

講師: 依田有樹恵弁護士

参加費: 無料 どなたでも参加できます。

2026 国際女性デーひろしま

日時: 2026年3月8日(日)午後

場所: 未定

テーマ・講師: 検討中

WENETニュース第60号

2025年11月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議

(広島市市民局人権啓発部男女共同参画課課気付)

責任者 貴田月美